

今後の懇談会について

令和5年3月10日

静止気象衛星に関する懇談会
気象庁

静止気象衛星に関する懇談会（今後の検討）

- 「静止気象衛星に関する懇談会」では、ひまわり8号・9号の後継衛星を念頭に、今後の気象衛星の整備・運用のあり方を議論してきた。整備・運用についてのとりまとめをもって、当初予定していた議論は一段落。
- 後継衛星を見据えて、搭載する赤外サウンダ等で得られる新しいデータの利用技術開発や、さらに将来の衛星計画の検討が必要ではないか。

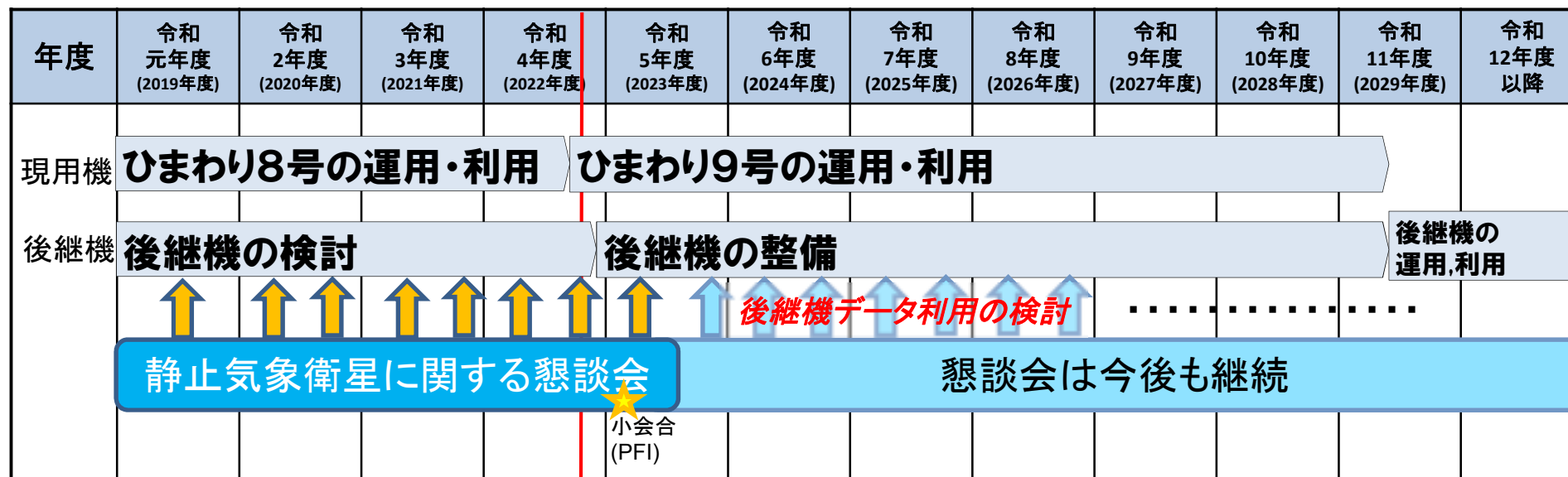
(参考)赤外サウンダデータ利用に関連する取組

- 数値予報モデル開発懇談会
 - 大学等研究機関の専門家に参画いただき、数値予報の予測精度向上に資する。
 - 赤外サウンダデータを数値予報モデルで利用するためには、データ同化に関する技術開発が必要。
- 線状降水帯予測精度向上ワーキンググループ
 - 大学等研究機関の専門家の協力を得て線状降水帯に関する最新の研究の知見を取り入れ、線状降水帯の予測精度向上に資する。
 - 後継衛星に搭載する赤外サウンダから得られる大気中水蒸気の三次元データは予測精度向上に重要な役割。
- 数値予報における赤外サウンダデータの利用については、これらの関連する取組みと相互に連携しながら、効果的に取り組んでいく。

研究者とのデータ利用技術開発連携

- 本懇談会の下に、主に若手研究者から成る「データ利用研究推進グループ」を設け、データ利用研究活動にあたっての意見交換を図っている。
- 研究者とのデータ利用技術開発に関する連携を、よりオープンかつ柔軟な形で継続していくために、現在の委員委嘱の形式から、メーリングリスト等を用いてメンバー管理する形式の連絡会に移行できないか。
 - 事務局である気象庁から定期的に後継衛星等に関する話題提供を行い適宜の情報交換を行うほか、メンバーからも適宜の情報提供を可能とする運用を想定。
- 地球衛星観測グランドデザインタスクフォース「将来の静止衛星観測に係る検討会(MInT)」においても、ひまわり後継機に搭載が期待されるセンサー等について学術的な観点から意見交換が行われてきた。

静止気象衛星に関する懇談会（今後）



「静止気象衛星に関する懇談会」の開催状況

- 第1回（令和元年 9月3日）：静止気象衛星ひまわりの役割・意義
- 第2回（令和2年 7月21日）：国内外の技術動向、最新の科学技術の導入
- 第3回（令和3年 2月24日）：民間のニーズ、事業実施方法
- 第4回（令和3年 8月26日）：さまざまな分野における利活用、国際協力
- 第5回（令和4年 3月8日）：ひまわりのデータ利活用促進の取組
- 第6回（令和4年 6月21日）：中間とりまとめ
- 第7回（令和5年 3月10日）：データ利用等に関する今後の議論の方向性 【今回】

今後の予定

次期PFI事業形態に関する小会合

- 第8回（令和5年 夏頃）： 後継衛星の整備・運用のあり方（とりまとめ）

ご議論いただきたいこと

- 後継衛星を見据えた、赤外サウンダ等の新しいデータの利用促進方策、データ利用技術開発方策、将来の衛星計画等の議論の方向性
- 今後の検討のために、「静止気象衛星に関する懇談会」を新しい体制で継続する必要性
 - 必要な運営要領の改正を実施
- データ利用技術開発に関する研究者との連携のあり方